

町内全ての小・中学校が受賞

福島県教育委員会から良い歯の表彰

町内4校の小・中学校は、養護教諭などが中心となつて児童や生徒の歯の健康に取り組み、その取り組みが認められ福島県教育委員会から良い歯の表彰を受けました。

只見小・朝日小・只見中が奨励賞、明和小学が優秀賞を受賞され、7月2日に役場本庁に受賞報告に來られました。

小学校低学年の保護者の皆さんには、子ども達が夏休み期間中に虫歯などにならないよう、家庭でも歯磨きの習慣が身に付く取り組みなどをお願いします。



▲これからも学校での取り組みをよろしくお願いします

工事の進捗状況を確認

八十里越視察ツアーを開催

7月11日、国道289号八十里越工事区間の視察ツアーが只見振興センター主催で行われ、多くの町民が参加しました。

今回の視察ツアーは、新潟県側8号トンネルの入口や、第5橋梁工事現場で工事の進捗状況を実際に目で確認し、長岡国道事務所の職員などから説明を受けました。

今後は、8月29日にも今回と同じ視察ツアーを予定しており、10月には有料となりますが、新潟県側に抜けるツアーも予定していますので、ぜひご参加ください。



▲8号トンネル入口で工事の説明を受ける参加者

コネエコパーク関連事業

只見町公認自然ガイド町外研修

7月12日～14日、只見町公認自然ガイドの能力・技術向上のために町外研修を行いました。

長野県の志賀高原では、専門家から自然観察会の開催方法を学び、新潟県津南町では、苗場山麓ジオパークの体験実習館で、ジオパークの概略と公認ガイドについて学びました。

今回の研修は、町外の公認ガイド制度について学ぶ良い機会となり、只見町の今後のエコツーリズムにもつながる非常に有意義な研修となりました。



▲交流する中で、自分たちの現状把握もできました

人権擁護委員に

鈴木 厚さん(只見)

平成27年7月1日付けで鈴木厚さんが、只見町担当の人権擁護委員として法務大臣の委嘱を受けました。

人権擁護委員は、全国の市町村に配置され、地域の中で人権思想を広め、人権侵害が起きないように見守り、人権を擁護する取り組みを行う町民の皆さんにとって一番身近な相談相手です。

只見町では、鈴木さんのほかに山内妙子さん(梁取)、渡部等さん(小川)も人権擁護委員の委嘱を受け活動しています。



▲これから3年間よろしくお願いします

ユネスコエコパーク関連事業

平成27年度「自然首都・只見」 学術調査研究助成金事業の助成テーマが決定！

「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業は、只見町の自然環境・生物多様性、歴史、民俗、産業に関する調査研究を行う研究者および研究集会に対して助成し、それらの価値を科学的に明らかにすることで「自然首都・只見」ブランドの向上を目指す事業です。さらに、研究者の交流人口の拡大を図り、町民の皆さんに学習の機会を提供します。

また、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用も期待され、年度内に研究成果発表会を開催して、町民の皆さんに研究成果をお知らせいたします。

今年度は、応募と審査の結果、下記の8件について助成を行うことが決定しました。



▲昨年度は1月末に研究成果発表会が行われました

助成の種類	テーマ	助成研究者代表	所属
調査研究	ユキツバキとヤブツバキは種として独立か？ 種分化に関わる歴史的、生態的要因を探る	阿部 晴恵	新潟大学
	虫媒花植物における花形質の変異性の適応的意義 フクジュソウの花弁数はなぜ花によって異なるのか	近藤 博史	横浜国立大学 大学院
	只見地域の古民家の建材の樹種組成からみた里山林の伝統的利用形態	井田 秀行	信州大学
	只見町内におけるハコネサンショウウオ属の生態に関する基礎的研究	吉川 夏彦	国立科学 博物館
	「あがりこ」による樹形の複雑化が節足動物群集の多様性に及ぼす影響	吉田 智弘	東京農工 大学
	阿賀野川流域における絶滅危惧種ユビソヤナギの分布と構造	金指あや子	希少種保全 研究会
	ユネスコエコパークが持続可能であるための要件に関する検討	戸田 恵美	放送大学 大学院
研究集会	「ブナ林生態系の健全な持続性」研究会の開催	小作 明則	財団法人進化生物学 研究所

なお、この事業は只見町ブナセンターと連携して行われます。町内で只見町ブナセンターの腕章・ロゴを付けた研究者や車両を見かけましたら、本事業による調査研究ですので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

また、研究集会の開催時期等については、詳細が決まり次第「おしらせばん」などでお知らせいたします。

＜お問合せ 総合政策課 地域振興係 ☎82-5220＞